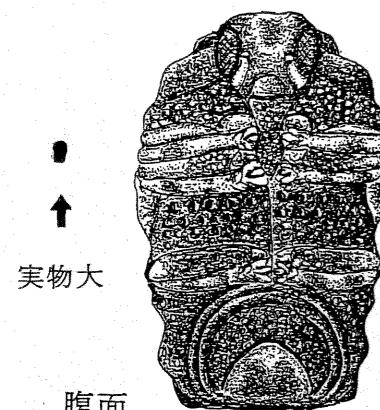


はり き たん けん 播磨 探検

2020.6.3
295号
え・文 赤松弘一

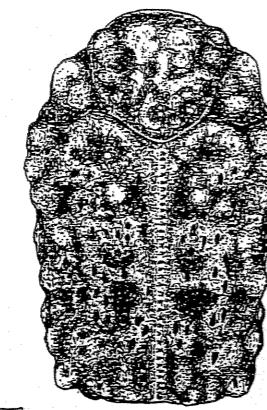
3つの絵は別々の3つの個体をいろんな向きに固定して描いている。



实物大

腹面

脚や触覚を畳んでくぼみに
収めると完全な虫糞状態に。



背面

凹凸に被われている。



側面

右が腹側、左が背側、
上が頭部である。

ツツジコブハムシ 跛躅瘤葉虫（ハムシ科）学名 *Chlamisus laticollis*
体長 3mm前後 食草 ツツジ

5月2日に、実家のツツジの葉の上で妻がムシクソハムシを発見した。この虫に初めて出会ったのは1999年の7月だった。フウセンカズラの葉の上にいたのをやはり妻が見つけたのである。体調3mm足らずの黒い虫で、葉の上についたイモムシのフンにしか見えないので「ウンコムシムシ」と勝手に名付けた。ルーペで拡大してもとてもよくできたフンである。しばらく観察していると畳んでいた脚を伸ばして歩きだすので、ようやく「虫かい！」とわかるのである。以来21年ぶりの再会であった。

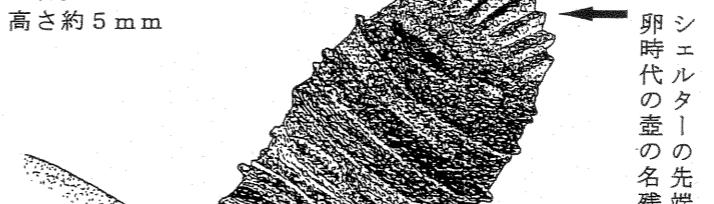
5月18日に学校の中庭でツツジの葉を調べていると、5mmほどの黒い卵型の団子がニヨキッと葉の表面に立っているのを見つけた。さすがにこいつは虫のフンか？と思ったが、ルーペで見ると、そのひっくり返った団子の下部から短い脚が数本覗いていた。知らんふりをして横目で見ていると、じりっじりっと動いている。調べてみると、これはムシクソハムシの幼虫であることが判明した。こいつは自分のフンを使って黒い壺のような殻を作り、その中にヤドカリのように入っているのだ。虫のフンに見えるが虫のフンではなかったのだ。いや正確には虫のフンか… ややこしいやつだ。

生物の中には様々な目的のために擬態という手段をとるものがある。植物の葉や花びら、樹皮にそっくりな形態になることで捕食者から逃れたり、反対に獲物に気付かれず待ち伏せたり、またスズメバチや毒チョウに似せて、敵の攻撃を逃れたりもする。虫のフンに化けるムシクソハムシは捕食者の目をごまかす擬態である。裏返すと腹側には筋状のくぼみがあり、ここに畳んだ脚や触覚がすべてきっちりと収まるようになっており、全てを収めると完全な「虫糞状態」になる。この擬態は「おいどん虫のフンを専門に食べるでござる」という生物がいるとかえって厄介だが、あまりいないでしょう。

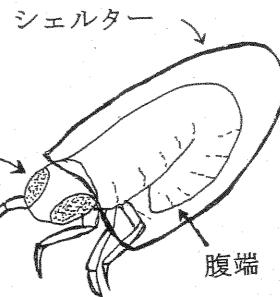
いくら似ているといっても「ムシクソハムシなんて名前は氣の毒だ！」と立ち上がり、虫権の擁護を訴えたものの、その生態を知ると「そんな名前も仕方なかろう…」と、頷きながらまた座り込んでしまう。「自分のウンコの中に潜むなんて、俺は嫌だね！」と思うが、「他人のウンコよりはマシだろ！」と反論されると納得するほかない。

ツツジコブハムシ（ムシクソハムシ）の幼虫

フンで作ったシェルター
を背負っている
高さ約5mm



卵シエルターの壺の先端は
時代の壺の名残り



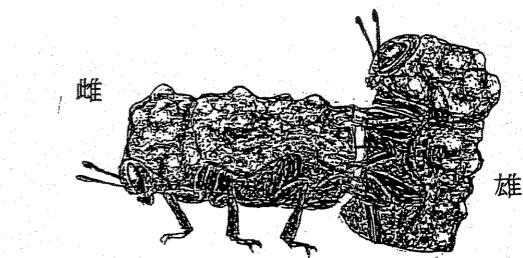
シェルター内の様子（ネットの情報から）
幼虫は腹部を折り曲げて入っている。



壺の中の卵
1mm弱



卵の入った壺



ケース内で交尾中らしいムシコブハムシ
妙な組体操に見える

後日、この虫はムシクソハムシの仲間のツツジコブハムシであると判明した。（ツツジの葉にいたので、たぶん）この他にもムシクソハムシの仲間は日本に10種ほどいるらしい。いずれもみんなイモムシのフンに似ているので、ひっくりめてムシクソハムシと言われる場合もある。（ここでもツツジコブハムシといわず、ムシクソハムシでいきます。その方が虫の生態を的確に表しており、文章としてもリズムがよいので）

その後、ツツジの葉の上で小さな卵を発見した。1mmにも足りない小さな壺の中に薄黄色のつややかな卵が1つ入っている。これはムシクソハムシのメスが卵を産んだ後、自分のフンで作ったものである。この虫は卵の時からムシクソなのである。卵から孵化した幼虫はこの母親が作った壺をひっくり返してかぶり、その下に自分のフンや葉の毛などを使って壺を大きくしていきシェルターを作るのだ。幼虫は図のように腹端を入口のほうに大きく曲げて中に入っていて、肛門から出したフンを殻の入り口に塗り足して見事なシェルターを造る（らしい）。ろくろで粘土を重ねて壺を作るのに似ている。したがってシェルターにはその時々のフンの成分や用いた葉の毛の質などによって、黒や茶、黄土色などが混ざった縞模様になり、顕微鏡下で見るとけっこう渋い焼き物に見える。幼虫はこの中でサナギになり、羽化して成虫になる。

ハムシは小さいながら様々な色や模様のものがいる。時にハッとするような美しいものもいてコレクターも多い（だろう）。しかし全身トゲだらけだったり、背中の鞘羽が透明だったり、形の多様さにも驚かされる。ムシクソハムシもそのひとつだが、どうしてこのような形になったのか？擬態のためなのだろうが、自らの意思でなったわけではない。まさに進化の不思議としか言いようがない。普段は見逃している小さな生き物たちの世界に首を突っ込んでみると、いろいろ発見があって面白い。また、こんな地味で小さな虫を専門に研究している学者もいるわけだから、人間も虫以上に多様で面白い。